

環境ビジネスに挑む

「エコ」娘が聞く！ 女性たち

□5■

環境ナビゲーター・上田マリノ

「食べ物を粗末にしない」——大昔から言われているその心、現代では食品リサイクルという形で実現化していると思えます。また各種のリサイクル法の中でも「食物」を扱っているからか、とても「生命」を感じる分野です。

今回はそんな食品リサイクルについて、都内に工場を持つ五十嵐商会の社長、五十嵐和代さんにお話を伺いました。同社は警備から清掃、廃棄物の収集から運搬・処分まで幅広いビルメンテナンスをメインの事業としています。

「食」を取り組むことになりまして、練馬区の給食残飯から始まりました。給食は塩分や油分が

少なくて栄養バランスが取れているので、米ぬかなどを独自の配合で混ぜ合わせることで、質の良い堆肥を作ることができる

そうです。現在では企業の食堂やホテルの調理残渣も扱っているとのこと。五十嵐氏「以前からこ

5坪ほどの隣にあることがあったので、もともと地域の理解はありまして、東京都の条例を下回るように臭いを減らす努力や設備投資をしています。スタッフへはお茶の出し方など、細かな部分も指導しています」

五十嵐氏「52年前に先代が1台のバキュームカーから始めた商売ですが、子どものころはいじ

トをかけた分だけ値段が上がりませんが、質が良いので好評を頂いています。例えば、二フは成長が良くなるので通常2回の刈り取りが3回になり、売り上げが増加します。こういったメリットのあるリサイクル商品は購入してもらえます」

五十嵐商会 社長 五十嵐和代氏

住宅の真横に！理想的な食リ工場



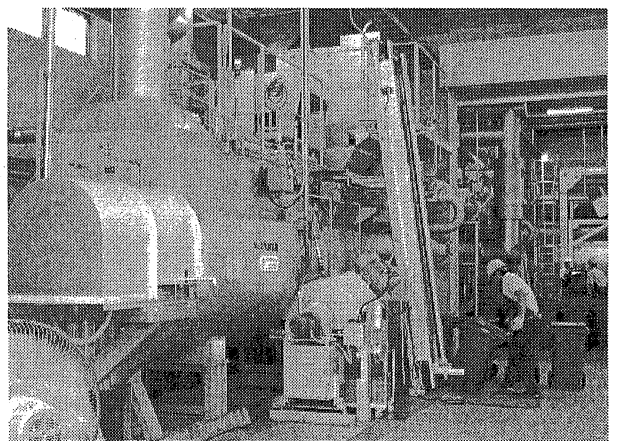
「IGARASHI 資源リサイクルセンター」の前に立つ五十嵐氏と筆者

めや差別に遭いました。ですが、仕事の後に浄化槽の蓋をピカピカに磨き、庭などもきれいに掃除の姿勢がお客様から感謝され、時にはお菓子をいただくこともあり、『父は人に喜ばれる仕事をしている』と良い誤解をして育ちました笑」

うと思っていると笑顔で語る五十嵐さん。そのよきな生い立ちもあり、リサイクル分野への参入へ抵抗はなかったそうです。

五十嵐氏「食品リサイクルは儲かりません。先だけではない、リサイクルによりできた物が活用されなくては、せっかく生み出した製品も無駄に見せることも信用度がアップするので、社会貢献の意味が今は強い

「自己紹介」環境ナビゲーター。武蔵野美術大学卒業後、独自に環境問題を学び「環境意識を0から0・1に！」をモットーにモデルやデザイナーの仕事を通してエコの普及活動を行う。埼玉県所沢市出身。



学校給食などの食品残渣から良質な堆肥を製造している

環境省の中央環境審議会の委員も務められている五十嵐さんは、これからも食品リサイクル業界へさまざまな提言をして行きたいとのこと。元気の素は仕事が取れたとき！とおっしゃるパワフルさと、リサイクルによりできた物が本当に人のためになっているか、問われる時代だと語る誠実さを兼ね備えた女性に出会え、食品リサイクル業界に循環の光を感じました。